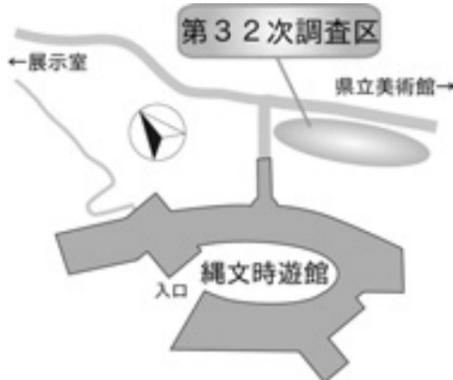


三内丸山通信



第25号環状配石墓



第32次調査区の場所（網がけ範囲）

今年もスタート！発掘調査

五月二十一日から発掘調査が始まりました。第三十二次調査となる今年度は、「環状配石墓」と呼ぶ大人の墓を中心に調査を行っています。

調査の目的

今年度の調査区は縄文時遊館の出入口の右手になります。ここは列に並んだ環状配石墓の南端に位置し、ムラの中心から離れた場所です。長い間続いたムラのなかで、いつごろ、何のために造られたかなどを考えるうえで重要な地点です。

調査の目的は大きく四点です。

「埋葬部」の確認

今回の調査区では、これまでに十二基の環状配石墓が確認されています。その中から数基を選び、亡くなった人を埋めた「埋葬部」の確認を行い、一部を掘り下げて造り方を調べます。また中から出土する遺物や炭を分析して年代を調べます。それによって環状配石墓が造られた順序がわかるかも知れません。また、「埋葬部」の周り

に並べた「配石部」の石を詳しく観察し、石の種類や道具として使用した痕跡などを調べます。さらに石がどこから持ち込まれたものかも調べます。

盛土状遺構の調査

平成六年度に試し掘りをしたところ、高さ1mほど土が盛りあがった部分がありました。下から土坑が見つかりました。上に土を盛ったお墓の可能性もあります。三内丸山遺跡でも非常に珍しいもので、墓の造り方や環状配石墓との違いなどを詳しく調べます。

斜面の土坑墓列の確認

環状配石墓の南西側に広がる斜面には、多くの土坑墓が並んでいることがわかっていきます。その広がりを確認します。

南端の確認

これまでに確認された最も南に位置する環状配石墓よりさらに南側に、石があることがわかっていきます。この部分を掘り下げて環状配石墓があるかどうか確認します。

発掘調査の公開

発掘調査を行っている月（金曜日の午前九時～十二時、午後一時～五時まで、実際の作業をすぐそばで見学することができます。また作業を行っている日の午前十時三十分から、『発掘調査ガイド』を行ないます。三内丸山遺跡の最新情報を知ることができる絶好の機会です。是非ご参加ください！

なお、発掘調査が休みの日（土・日曜、祝日、雨天時、八月十一～十五日のお盆休みなど）は遺跡を保護するためシートがかけられています。



発掘調査ガイドの様子



きてみて 作って!

三内丸山 縄文教室

縄文時代の人々は、植物をどのように利用したのだろうか? イノシシのろっ骨で作った、わん曲した針の使い心地は? 縄文時代の布や服はどうやって作ったのだろうか?

今年度も「縄文教室」が始まりました。一回目は石器作りを行いました。まず、参加した皆さんは、原石から石器ができるまでの手順を見学。その後、天然のガラスといわ

れる黒曜石で矢じりを作りました。

また、九月七日と十月二十六日の二回にわたって、日本女子大学 櫻楓家庭工芸研究所の谷川栄子先生を講師に迎え、遺跡の中の植物を観察、採集して、カゴ等を作る予定です。

三内丸山遺跡では、縄文時代の素材と同じものを使って実際に作ることで、それを使うことで、当時の暮らしのりの一部を体験することができます。

また、九月七日と十月二十六日の二回にわたって、日本女子大学 櫻楓家庭工芸研究所の谷川栄子先生を講師に迎え、遺跡の中の植物を観察、採集して、カゴ等を作る予定です。

「ドキ! 土器? 体験 事業」で「ドキドキ」?

青森県内には、縄文時代の重要な遺跡がたくさんあります。

県教育委員会では、子ども達にもつと郷土を知ってもらい、歴史への関心を深めてもらうため、「ドキ! 土器? 体験事業」を行っています。

今年度は県内の六つの小学校に協力いただき、出前授業や遺跡見学、体験学習などで遺跡に親しんでもらう

児童が三内丸山遺跡を見学しました。

発掘調査を担当した職員の見学で縄文ギャラリーや遺跡内を見学し、質問コーナーや勾玉作り・ミニ土器作りを体験するとともに、小牧野遺跡も見学しました。

五月には学校で大鰐町の上牡丹森遺跡から出土した土器を観察、その後、実際に土器作りを行い、縄文時代のことをたくさん知



土器うまく作れるかな?



講師の動きにみんな釘付け

ていいます。四月二十八日には、大鰐町立大鰐小学校の児童が三内丸山遺跡を見学しました。

とができます。きつと、新しい発見があるはず。今後の予定については、チラシやホームページなどでご案内いたします。ぜひご参加ください。

展示室夏の催し物

おしらせ

夏休み特別収蔵庫 見学会のお知らせ

期間：七月十九日(土)～八月二十四日(日)

これまでの発掘調査ではダンボール箱約四万箱の土器や石器が出土しました。ここから復元された約五三〇〇点の土器を、特別収蔵庫に保管しています。普段は公開していませんが、夏休み期間に、この収蔵庫の見学会を行います。毎日一回、午前十一時と午後二時から、十五分間程度で収蔵庫内をご案内します。展示室カウンターで、当日の参加希望の受付を行います。

第二回企画展のお知らせ

場所：企画展示室 期間：七月二十六日(土)～十月三十一日(金)

三内丸山遺跡では、筒型の細長い土器が盛んに作られました。これらは円筒土器と呼ばれます。今回の企画展ではこの円筒土器に注目し、研究の歴史を振り返り、何故このような土器が作り続けられたかを探ります。

平成十九年度

報告会を開催しました

三月十七日、縄文時遊館で昨年度の発掘調査報告、特別研究の成果報告を行いました。

『石斧製作石材(原石・擦り石・石刀)の円筒土器文化圏における流通』

合地信生さん(斜里町教育委員会)は三内丸山遺跡と北海道・東北北部の遺跡から出土した石斧や磨り石、擦切具の石材を調査しました。三内丸山遺跡では、主にアオトラ石(北海道平取付近産の緑色片岩)を使って石斧を作っていたこと、前期から中期にかけて、北海道東部の遺跡では主に青色片岩を使用しているのに対し、北海道南部ではアオトラ石(緑色片岩)が

六割を占めることなど、石材の流通の様子を明らかにしました。

『縄文中期から後期初頭の環境文化急変の解明 三内丸山遺跡を中心に』

辻誠一郎さん(東京大学大学院)を研究代表者とするグループは集落がどのように終わったのか解明するため、環境と植物の利用等について検討しました。この結果、関東平野では縄文海進後の海退が三段階にわたっておこっていたことを初めて明らかにしました。段階的におこった気候の寒冷化とクリの消滅、トチノキの増加が集落に大きな変化を起こしたことを指摘しました。

三内丸山遺跡のご案内

- 交通
 - * JR青森駅から 車で約20分(約7km)
 - 市営バス「運転免許センター」行き「三内丸山遺跡」下車
 - * 青森空港から 車で約30分(約8.5km)
 - * 東北自動車道青森ICから 車で約5分(約2km)
 - * 青森港フェリー埠頭から 車で約30分(約7km)
- 遺跡の開園時間
 - * 6月～9月 午前9時～午後6時
 - * 10月～3月 午前9時～午後5時
 - (入場は終了時間の30分前まで)
- ガイド(無料・個人参加は事前申し込み不要・団体は要申し込み)
- * 遺跡ガイド
 - 1回目は9時15分から、その後は10時から1時間おき、最終は16時
 - (7月26日～8月17日は10時から30分おき)
 - 問い合わせ：017-766-8282
- * 展示室ガイド
 - 午前10時50分・午後1時50分・午後3時50分
 - (8月2日～7日はお休みします)
 - 問い合わせ：017-781-6078
 - 休館・休業日 12月30日～1月1日
 - 入場料 遺跡内・時遊館・展示室とも無料
 - 駐車場 普通車用・大型車用・身障者用あり(無料)